

経営情報学会 2024 年全国研究発表大会

清宮 徹（きよみや とおる）
西南学院大学外国語学部

1. 2024 年研究発表大会の開催報告

2024 年 11 月 16 日・17 日の二日間にわたり、西南学院大学にて経営情報学会の全国研究発表大会が、「経営と情報の社会性」というテーマの基に開催されました。多くの研究者や実務家の皆様にご参加いただき、盛況のうちに終了いたしました。最終的に本大会は、203 名（事前申込 169 名 + 当日申込 34 名）の参加者にお越しいただきました。ご多用中にもかかわらず、福岡まで足をお運びいただきまして心よりお礼申し上げます。本報告では、基調講演および特別講演の内容を中心に、大会のハイライトをご報告いたします。

2. 基調講演：「地図情報の未来～ICT 時代の技術と社会性～」

本大会の基調講演は、株式会社ゼンリンの代表取締役社長である高山善司氏にご登壇いただきました。高山社長は本学の商学部卒業生でもあります。講演では、地図情報の進化と未来について、ICT の発展とともにどのように地図ビジネスが変革してきたのか、そして今後の展望について詳しくお話しいただきました。

高山社長は、ゼンリンの歴史とともに、住宅地図ビジネスのデジタル化、カーナビゲーション市場の拡大、インターネット時代の地図サービスの進化などの過程を紹介されました。さらに、3D 地図技術やモビリティサービスとの連携、AI を活用した位置情報の活用など、次世代の地図技術がどのように社会に貢献していくかについて議論されました。特に、地図情報のオープン化とデータ連携の重要性が強調され、産官学の連携による新たな価値創造の可能性が示唆されました。



株式会社ゼンリン 高山善司社長（右）

3. 特別講演：「情報技術と社会制度のアーキテクチャ」

特別講演では、慶應義塾大学総合政策学部の國領二郎教授をお迎えし、「情報技術と社会制度のアーキテクチャ」というテーマでご講演いただきました。國領教授は、経営情報学会の創設時から会員として活動されており、長年にわたる研究成果と学会の発展について振り返りながら、情報技術と社会制度の関係性についてお話しされました。

講演では、オープン・アーキテクチャの概念を中心に、システム設計と社会のレジリエンスの関係性について議論が展開されました。情報技術が社会制度に与える影響として、データ連携の重要性が指摘され、特に近年の DX（デジタルトランスフォーメーション）におけるオープン化の流れが社会にどのような影響を及ぼしているかについて具体的な事例を交えて解説されました。

また、國領教授は、今後の経営情報学の研究において、「データの相互運用性」「プラットフォームの持続可能性」「社会的包摂性の確保」の 3 つの視点が鍵となると指摘されました。学会としての役割を果たしながら、産業界や政策立案者と連携し、情報技術と社会制度の調和を図ることの重要性が強調さ



慶應義塾大学 総合政策学部 國領二郎教授（右）

れました。

4. 研究発表の概要

本大会では、多岐にわたる研究発表が行われ、経営戦略、組織論、データマイニング、マーケティング、公共政策など、さまざまなテーマが取り上げられました。特に、生成AIの活用やデータガバナンス、DX推進に関する研究が注目を集め、活発な議論が交わされました。また、学生セッションでは、今後の研究の発展が期待される内容が多く発表されました。ポスター・セッションによる発表もたいへん活気があり、即興ながらもチームワーク良くプレゼンテーションし、切磋琢磨している姿が印象的でした。企業展示も行われ、産学連携の促進に寄与する場となりました。

5. 最後に

2024年の経営情報学会全国研究発表大会は、「経営と情報の社会性」というテーマ設定の基、情報技術と社会制度の関係性を深く探究する場となり、多くの知見が共有されました。基調講演・特別講演を通じて、データと情報技術の発展が経営情報学に与える影響が改めて認識され、今後の研究の方向性が示されました。

来年度の発表大会でもさらなる議論の深化と、新たな研究成果の発表を期待しています。ご参加いただいた皆様、発表者・関係者の皆様に心より感謝申



学生優秀発表賞 授賞式



学会賞を受賞された小倉先生（中）と馬奈木先生（左）

し上げます。とくに大会委員会の理事であり委員長の向日恒喜先生（中京大学）、理事の高木俊雄先生（横浜市立大学）と黄婷婷先生（武庫川女子大学）には、準備段階から大会当日まで大変お世話になりました。さらにプログラム委員会委員長の四本雅人先生（長崎県立大学）、大会の実行委員として藤井資子先生（九州産業大学）および前田瞬先生（長崎県立大学）には当日の運営などに、大変ご尽力いただきました。本学には私一人が会員であったため、九州沖縄支部会の全面的なサポートがあり、支部の先生方のご助力無しには運営実行できませんでした。ここに改めてお礼申し上げます。次の開催も、みなさんの協力でより良い大会にしていきたいと思います。